

第4回加西市環境審議会 会議録

1. 日 時：平成28年12月20日（火） 13：30～15：40

2. 場 所：加西市役所 1階 多目的ホール

3. 出席及び欠席委員

＜出席委員＞ 12名

＜欠席委員＞ 1名

＜事務局職員＞ 6名

4. 議事

- (1) 第1章計画の基本的事項、第2章加西市における環境の現状と課題について
- (2) 第3章将来像と方向性について
- (3) 第4章環境施策について
- (4) 第5章計画の進行管理について
- (5) 環境基本計画全般について

5. 会議資料

資料 1 第2次加西市環境基本計画(素案)

資料 2 加西市環境基本計画 次期計画策定スケジュール

6. 会議の経過

別紙「第4回加西市環境審議会・会議の経過」のとおり

(別紙) 第4回加西市環境審議会・会議の経過

発信者	会議の経過／発言内容
事務局	1 開会あいさつ
事務局	2 議事 (事務局から説明) (1) 第1章計画の基本的事項 第2章加西市における環境の現状と課題について
会長	・ 抜けているようなことがあれば意見をいただきたい。
副会長	・ p5 の気候のグラフについて、降水量が少ないのではないかと。加西市の気候を見間違えるおそれがあるのでは。
事務局	・ 雨量と平均気温については加西市内の消防署のデータを引用しており、以前のデータを含めた妥当性について再度検討させていただく。
会長	・ 降水量 1,300mm は少ないのか。
副会長	・ 1,700mm 前後が妥当と思うが。
会長	・ 1,300mm くらいかなと思うが、事務局で確認していただきたい。
会長	・ 「風土記」について第3章にいきなり出てくる感じがする。p41 に風土記の記載がないので入れたほうがいいのではないかと。

事務局	(事務局から説明) (2) 第3章将来像と方向性について [将来像案] 第1案 「緑と命がおりなす風土記の世界を未来につなぐまち 加西」 第2案 「水と緑と命がおりなす風土記の世界を未来につなぐまち 加西」 第3案 「水と緑と人がおりなす風土記の世界を未来につなぐまち 加西」
会長	・ 将来像についてどれか一つを選ぶということか。
事務局	・ それ以外でも案があれば提示していただきたい。
委員	・ (第3案の)「命」を「人」としている理由は？
会長	・ 「水」「緑」「命」ではバランスが悪いように感じ、風土記は人がおりなす世界であることから、「命」より具体的に「人」としたほうが良いと考えて提案した。「緑」は生命を、「水」は無機的環境をそれぞれ表し、そこに「人」が入ることをイメージしている。あくまで私の思いつきであることから、意見についてはたくさん出してもらいたい。
会長	・ 播磨国風土記は作成の命令が出たのは712年で、わずか3年後の715年に出来ている。かなりの準備をしていたものと窺える。
委員	・ 将来像が変われば説明文も変わるのか。
事務局	・ 将来像に応じて説明文も修正、追記を行う。
委員	・ 「緑」は生きているものであることから、「命」と分けて並列すると、「緑」に命がないように解釈されてしまうので違和感がある。
会長	・ 「水」「緑」「人」と異質同士のものをまとめているので難しい。「おりなす」とは創り上げることであるから、同じような系統を集めるニュアンスがある。
委員	・ 「緑」を他の生命も表すのであれば、第3案が一番よいのではないか。

委員	・ 「水」「緑」は自然からいただくものであるので、かかわる「人」がどのようにおりなすのか、違う物同士がかかわるという点で「人」が入る方がよいと思う。
委員	・ 環境目標 4 と環境目標 5 を分けて表記した理由は？ 項目数は少ない方が伝わりやすいと思う。
事務局	・ 循環型の社会環境づくりとして、廃棄物の適切処理や不法投棄防止、リサイクルの推進は市の環境施策の柱の一つである。一方地球温暖化対策については市内の省エネ対策や関連計画に基づく施策の実施を行っており、分けた方がよいのではと考えている。
委員	・ 環境への配慮という点では 4、5 は同じである。環境目標 5 は 1 項目のみでざっくりしすぎではと思う。そもそもこの計画は誰を対象に作るのか？ たまたま見た人に伝わるには、項目が少ないほうがよいと思うが。
会長	・ 環境目標 4 と 5 については、前回計画では分かれていて、それを引き継いだということか？
事務局	・ 前回の計画の分け方に準じている。本計画では、そこに「環境目標 6 地域の多様な主体が一体となった環境づくり」を加えた形としている。環境負荷の点からいうと一つにまとめられると思うが、これまで行ってきた普及啓発は「ごみ」「エネルギー」であり、範囲が広がるのではと考えて、項目として分けている。目標の表題が適切かは再度検討を行う。
会長	・ 環境目標 5 は地球規模の問題について加西市でどれだけできるかということを示していると思われる。他に意見は？
委員	・ p43 の環境目標 5 の地域レベルの地域とは何を示しているか。
事務局	・ 地球規模に対して、地域レベルということで 1 自治体の加西市を示している。

会長	・ 環境目標 6 は追加したということか？
事務局	・ 前回の審議会で 6 項目にするということで同意いただいている。
会長	・ 他に意見は？
委員	・ 野焼きについて田んぼの草を燃やす行為も対象になるのか？
事務局	・ 野焼きは原則として、野外で物を燃やすことは全て禁止とされているが、やむを得ない場合(例：農業活動、とんど焼き、キャンプファイヤー、病虫害駆除 等)は対象外としている。
委員	・ 農業において発生した廃棄物(草刈りの残渣等)を全て廃棄物処理場に持ち込むことは非現実的で線引きはかなり難しい。
副会長	・ 農業での草と一緒にマルチも焼却することがあり、このような時に生活環境に影響を与えると思うが、草や木のみでは大きな問題ではない。
会長	・ 将来像について、3 案のうちどれにすればいいのか決めておこうと思う。意見はないか？
委員	・ 風土記という言葉に記載するのであれば、播磨がこのような描かれているという風土記の紹介文が 1 ページでもあればよいと思う。
委員	・ 風土記とはその土地でとれた作物や存在するもの、自然現象等について記載する記録簿ではないかと思う。
委員	・ 記録簿であってもイラスト等イメージのしやすいものがあればいい。
事務局	・ 風土記の記載については巻頭言の導入部分に記載することを検討する。

会長	・ 播磨国風土記は地名の由来に関する記述が多い。なかでも「檜原里」に記載されている檜はコナラ等の落葉樹のことであり、風土記が編纂された 715 年頃には既にコナラ林の里山が成立しており、今と変わらない景観であったことが推測される。今の景観を守ることは 1300 年前の景観を守ることといえる。
委員	・ それなら「播磨国風土記の世界を未来につなぐまち」にすればよいのではないか。
会長	・ 「水」：川やため池、「緑」：生命、「人」：風土記というイメージで提案している。事務局としての案は？
事務局	・ これまでの意見をふまえると、第 3 案がよいのかなと思う。
委員	・ 将来像はどこかに掲げるのか(歩道橋等)。
事務局	・ その予定はない。
副会長	・ 「世界」という用語が固い印象を受ける。
委員	・ 「世界」を「さと」にしてもいいのではないかと。範囲が限定されて、加西市のイメージにつながる。
委員	・ 「風土記のさと」では当時の景観をそのまま残すような印象を与えてしまう。「世界」であれば当時の考え方や感じ=環境をイメージできるのでは。昔の環境をそのまま残すのではなく、いい部分を残すこと。
委員	・ 地球温暖化をテーマに入れるのであれば「世界」という言葉もありなのでは。
委員	・ 風土記は自然でなく、記録簿である。
委員	・ 風土記だけでは記録簿だが、「世界」が入ると環境を表すのでは。

会長	・ 「世界」は「イメージ」に例えられるということか。イメージを未来につないでいこうという。そのように考えると「世界」でもいいかと思うが。
委員	・ 変わらずに続いている環境ということか。
委員	・ 「風土記の文化」としてはどうだろうか。
会長	・ これだけあると終わりそうにないので、とりあえず、次の議題に進みたいと思う。
事務局	(3) 第4章環境施策について (事務局からの説明 環境目標 1) 意見なし
事務局	(事務局からの説明 環境目標 2)
委員	・ 特産品のPRに関する記述は生物多様性の記載としては無理があるのではないか。循環型社会に関する記述ではないのか。
事務局	・ 加西市で地産地消の取組として、農政課と教育委員会と連携して学校給食で地元農産物を使用しており、加西の自然環境が育んだものをPRするという認識から生物多様性の項に入れているが、適切なカテゴリーはどこか検討を行う。
会長	・ 農林業も生物多様性の恵みに入っており、この項に整理されていても違和感はない。

事務局	(事務局からの説明 環境目標 3)
委員	・ 「伝承」という用語が出てくるので、第 3 章将来像を「風土記のさとを伝承するまち」もよいのでは。
会長	・ 各地に伝わる祭や伝統行事について、無形文化財の指定は行っているのか。
委員	・ 網引獅子舞や東光寺の鬼会が指定されている。
委員	・ 写真は北条地区だけでなく、これらも掲載したほうがよいのでは。
事務局	・ 無形文化財に入っていない祭等は各地にたくさんある。
会長	・ 保全方法として無形文化財指定が一つの方法ではないか。
事務局	(事務局からの説明 環境目標 4) (事務局からの説明 環境目標 5)
事務局	・ p41 地球温暖化の定量的評価を課題から削除させていただく。
会長	・ 太陽光発電の導入について、自然環境や景観との調和を図るとあるが、もっと強い表現のほうがよいのではないか。(自然環境や景観の保全に矛盾しない 等) 県も太陽光発電の規制条例を検討する方向でいる。
事務局	(事務局からの説明 環境目標 6)
会長	・ 「体験学習」「体験型の環境学習」→「環境体験学習」に用語を統一した方がよい。
委員	・ 地域のコミュニティ活動について、自主的な河川清掃もとりあげてもらいたい。

会長	・ 記載方法については難しいと思うが検討をお願いしたい。
事務局	・ 記載の可否について検討を行う。
委員	・ 環境を守る「環境の担い手の養成」についての記載を充実させた方がよい。
会長	・ (1)環境学習の推進の項に記載があるが、(2)の項にも記載するということか。
事務局	・ 環境学習講座の部分に目標として「環境保全の担い手づくり」を明記して修正する。
事務局	(事務局からの説明 重点施策)
委員	・ 定量的に評価できるところは評価してもらいたい。外来種の減少等目に見えるかたちで評価できるものについては、定量評価と異なる形での評価が必要。重点施策に省エネを取り上げていないのでインパクトが弱い。省エネは行政による援助が必要で、市民への援助やアピールを行うことがよいのではないか。
事務局	・ 省エネについて、市でできることは補助金による再生可能エネルギーの促進等限られているので、重点施策としてとりあげることは難しいと考えている。評価方法については、定量評価できるところは出来る限り実施し、定量評価が難しい事項については、状況を示すものを提示して適切な評価を行いたい。
会長	・ p60 の野生生物保護地区は、条例に基づく地区指定であると思うが、普光寺等優れた自然環境であっても指定されていない箇所がある。野生生物保護地区の指定の拡大を天然記念物指定と合わせて検討していただきたい。

事務局	(4)第 5 章計画の進行管理について (事務局からの説明)
委員	PDCA サイクルにおけるチェックが重要であり、チェック体制を作ってもらいたい。責任の所在を明確にして、どこをチェックすべきか検討してもらいたい。
委員	(上記意見に関連して)年度ごとのアクションプランや数値目標等はどうのように考えているのか。県では数値目標に基づいて評価を行っているが、加西市ではどのように実効性を担保するのか。
事務局	数値目標については個別の関連計画(一般廃棄物処理計画、生物多様性戦略 等)で目標管理をしており、そこで評価検討を行う予定としている。また、関連計画にない項目については、実績を集約し、環境審議会を通して評価を行い、評価基準の検討を行っていききたい。
副会長	(5)環境基本計画全般について 第 2 章 p15 の道路騒音の表で、1 箇所基準値超過となっているが、実際の数値はどれくらいか。
事務局	表に記載してある。基準 70 に対して 72 となっている。道路騒音については H24 年から独自で実施しており、路線ごとにコンピューターで解析しているが、評価が難しい。加西市内の道路については基準値内に収まっているが、超過した路線については、交差点付近で計測したことが原因と考えている。
会長	基準値を超えている部分が着色しているので目立っている。一部で基準値を超えているが、概ね問題ないのであれば、着色は不要でないか。
委員	その他のページでも、基準値を超えている箇所には着色している。
会長	全体として同様のとりまとめをしているのであれば、それで構わない。他に意見は？

委員	第 3 章の環境目標 4 と 5 について、元となる法律も異なっていることから、国や県の計画では区分して書くのが一般的となっている。
委員	環境目標 4 については「循環型の社会環境」とあるが、環境目標 5 「低炭素社会」と対比するのであれば「循環型社会」のほうが適しているのではないかな？
事務局	「循環型社会」に修正する。
委員	p41 の課題で循環型社会の箇所に「ごみの分別の徹底」「リサイクル率の向上」がないのは、加西市ではそれらの目標を達成できているというためであると思うが、課題として取り上げてもいいのではないかな。不法投棄の物量は全体の一部であり、改善されたとしても循環型社会の形成においては大きく寄与しない。
事務局	課題として新たに追記する。
委員	ごみの分別、減量は進んでいるが、コンビニのごみのポイ捨てが問題。
委員	獣害対策として獣害防止柵の設置が記載されているが、防護柵の設置だけでは不十分で、駆除により個体数を削減する対策も必要(狩猟者の育成等)。
委員	全ての写真に解説文があればいい。p58 には野焼きだけでなく、不法投棄の写真もあったほうがよい。
事務局	不法投棄の写真も掲載する。
副会長	p40 の自然観察会や環境学習会等のイベントに参加したことがある市民が少ないとのことであるが、草刈りや集団回収等の強制力のある活動と比較することが適切なのかな。
会長	今後の課題としての裏付けを示すものであると思うが、事務局としての考えは？

事務局	自由参加の活動、強制力のある活動の参加率が異なることを示すために掲載しているが、説明を追記して対応したい。
副会長	加西市の祭について 1 枚の図に整理すればいいのではないか。自然環境についても同様。
会長	それぞれのテーマごとに作成するとページ数が増えるので 1 枚の図面に全体を整理することを検討してもらいたい。
事務局	ページ数が増えることは問題ないが、資料編での整理を検討したい。
委員	「里地里山」と「里山」が混在しているので統一した方がよい。
事務局	文言の統一を図る。
委員	環境審議会を毎年行うとのことであるが、委員の選考方法と任期は？
事務局	任期は市の条例により 2 年となっている。人選について定められたものはないが、幅広く審議いただくために各分野の代表者を選定していきたい。
委員	途中で参加した人は経過がわからないと思うので、任期の設定の柔軟性等、計画の見直しのできる適切なシステムにしてもらいたい。
事務局	任期については施行規則で決まっているが、「再任は妨げない」とあるので、運用方法について検討していきたい。
委員	野焼きの規制について何を燃やせばいいのかわからない。基準はどうなっているのか。
事務局	どのような被害がでるのか状況によるので、はっきりした基準は決められないのが現状。
委員	小中学生の下校時に野焼きが行われることが多く、避けて貰いたい。

会長	・ 誤字脱字については事務局に直接連絡してほしい。本日決めることができなかった将来像は事務局と会長で検討ということで一任させてほしい。修正した計画については委員に配付されるのか？
事務局	・ 今後についてはパブリックコメントを来年 1/7～31 日に実施予定である。本日出された意見をもとに修正を行いパブリックコメントに反映させたいと考えている。
委員	・ 修正については早めに対応してもらいたい。
事務局	・ 資料編に環境審議会の委員名簿を掲載したいが、よいか。 (異議なし)
会長	・ 本日の審議はこれで終了する。
事務局	3 閉会あいさつ